

概要報告

実施期日	令和7年8月5日(火)
部会名	小学校 図画工作部会

研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ

『学校目標「考えて行動できる子」の育成～小中9年間の図工美術教育を目指して～』

提案概要

①系統的な9年間の学びを目指して～教科担任制の導入・カリキュラムの見直し～

施設分離型小中一貫校になったことを受け、系統的な9年間の学びを目指し、教科担任制の導入やカリキュラムの見直しに取り組んだ。低学年・中学年・高学年とそれぞれ重点テーマと主に扱う材料や道具を決め、9年間の系統的な内容を整理し、学習を積み重ねられるようにした。

また、1年生から教科担任制を導入し図画工作の授業を実践している。より専門的に教科に向き合いながら、教材研究に取り組めるようになった。

＜ブロック毎の重点テーマ＞

	重点テーマ	主な道具
低学年	素材に親しむ	油粘土 紙粘土 液体粘土 石 折り紙 落ち葉
中学年	道具に親しむ	カッター 絵の具 はさみ のこぎり 金づち ダンボールカッター 彫刻刀
高学年	表現する	針金 彫刻刀 電動のこぎり 土粘土

②考える力を育むための授業

学校目標は、小学校が「考えて行動できる子」、中学校が「考えて行動できる人」と、発達段階に合わせた形で統一された。6年間の集大成として行われた6年生の授業では、児童が6年間で身に付けた力や学んだことを振り返ることから始め、道具や材料を精選し、計画を立てて学習に取り組む力を育成することを目指した。

●実践の内容

第6学年「私はデザイナー」。

生活が楽しく便利になるものを作ることを通して、材料の特徴や道具の使い方など、これまでに学んだことを生かし、表したいことに合わせて工夫して制作する。

●考える力を育むための、具体的な手立て

(1) 自分の生活を彩るものを

児童が自分に必要なものを探して制作した。その際、工作用紙等で試作品を作ることにより、サイズ感をとらえることができた。6年間の集大成であることを意識させるため、他教科の学習とも関連があることを伝えた。

(2) イメージを膨らませるために

既習事項や、以前使用した道具や材料など経験を振り返る時間を取り、「これならできそうだ」というイメージをもたせた。

(3) 材料・道具の精選

木材以外の材料は自分で用意するよう伝え、友だち同士で情報交換できるようにした。

(4) 試行錯誤の時間を

計画通りにいかなかった場合を想定し、時間数に余裕をもたせるとともに、友だちとアドバイスを送り合い、再構築する時間も設定した。

(5) ICTの活用

毎時間「自分のめあて」「本時の手応え」「次の学習に向けて」をタブレットに入力させることで、活動の見通しをもたせるとともに、教師側が児童の進捗状況や制作時の悩みなどを把握しやすくした。

●成果と課題

児童は、作業を教師に確認しないと先に進めない姿から自分で決定する姿へと変化した。また、与えられた材料だけでなく自ら積極的に材料を集め、作業に取り組むようになり、学習を通じて自己決定力と主体性が向上した。その一方で、児童の中には、知識や経験が足りず、具体的な作品のイメージが湧かないケースが見られたり、作業でつまづいた際、その原因を自分で見つけたり、困っていることを言葉で伝えたりすることが難しい児童がいたりした。今後は、児童同士で困りごとを共有し、解決策を話し合う機会を増やすことが求められる。

質疑応答

特になし

協議の柱及び協議概要

●考える力を育むための授業の工夫

・主体的に考える力

導入の大切さ…様々な作品を見せ、児童が自分で作りたいものを選ぶことで、主体的に取り組むことにつながる。また、試作時間を取ることで、よりよい作品になるよう再考したり、計画を立てる際に役に立ったりする。

・対話的活動

作成の途中で話し合う時間を取る…

作成途中で児童同士作品を見合う時間を設け、アドバイスを送り合ったりする、途中経過の報告会をする、困り事を共有する、などの活動が考えられる。

まとめ概要

●実践授業について

6年生の「私はデザイナー」の授業は、児童が日常生活を豊かにするものを考案・試作し、改良しながら作品を完成させるという内容であった。試行錯誤する姿や振り返りシートから児童が主体的に活動する姿が見られた。また、ICTを活用しためあての設定や振り返りの仕組みも効果的であった。

●施設分離型小中一貫校として

・系統的な学び

9年間の学びの連続性を意識し、特に小学校の発達段階に応じた学習展開が学習指導要領に沿って示されていた。

・異校種交流の活用

中学生と小学生の作品交流を通じて、小学生は中学生の表現から刺激を受け、中学生は小学生の自由な発想から学ぶといった、作品を通じた対話的な学びが実現した。

今後も、今回の様な小中一貫、9年間の実践を通じた成果を、他の地域にも共有することが大切である。